



3. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋 第2回日本ヘルスリテラシー学会学術集会報告

安村誠司

同大会長、福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

1. はじめに

第2回日本ヘルスリテラシー学会学術集会（大会長 安村誠司）を、ヘルスコミュニケーションウィーク 2022～名古屋～（2022年10月1日(土)～2日(日)のハイブリッド開催期間中に、開催致しました。学会企画としてシンポジウムと一般演題・口演を企画致しました。

2. シンポジウム

シンポジウムは、10月1日(土)17:00～18:30に開催致しました。今年度は、いまだ世界を席卷しており、終息が見えない新型コロナウイルス感染症問題を取り上げ、新しい話題にも、ヘルスリテラシーの知識が役立ち、その役割が極めて大きいこと、応用力が高いことなどを理解頂く機会になればとのことから、テーマは、「COVID-19とヘルスリテラシー 国民への情報発信と地域・職域での対応」とし、座長は杉森裕樹先生（大東文化大学）、江口泰正先生（産業医科大学）で、演者は第一線で活躍する専門家である以下の4名でした。

- ・奥原 剛（東京大学）「パンデミック下での情報発信～ヘルスコミュニケーションの視点から」
- ・忽那賢志（大阪大学）「前線の医療現場からの情報発信をする意義」
- ・藤内修二（大分県福祉保健部）「地域における COVID-19 対応と地域住民のヘルスリテラシー」
- ・福田 洋（順天堂大学）「企業の COVID-19 対応と職域におけるヘルスリテラシー」

コミュニケーションの土台となる地域住民のヘルスリテラシーに着目し、COVID-19の第7波における感染者数増加は依然予断を許さない中、専門家による情報発信と地域住民のヘルスリテラシーについて多くの示唆が頂けた内容となりました。なお、忽那先生、藤内先生、福田先生がオンラインでの参加でしたが、事務局の対応も良く、プレゼンテーションと質疑応答等は滞りなく進められました。

3. 一般演題・口演

一般演題・口演は、10月2日(日)10:40～11:40に、座長を野呂幾久子先生（東京慈恵会医科大学）、上野治香先生（帝京平成大学）のもと、以下の5題が発表されました。

- ・春原光宏（東京大学保健・健康推進本部）「大学生のヘルスリテラシーの特徴」
- ・森山信彰（福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座）「労働者におけるヘルスリテラシーと健康づくりに関して信頼できる情報源の関連」
- ・三輪眞木子（放送大学院情報学プログラム）「高齢者のヘルスリテラシーレベルとインターネット利用」
- ・井上真実（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）「COVID-19 インフォデミックにおける様々な情報入手源の利用とヘルスリテラシーや COVID-19 知識との関連」
- ・渡邊清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）「放射線健康影響に関するリテラシーを向上する介入プログラムの効果と実効可能性の検討」

各演題の内容についての紹介は省略させていただきますが、演題名からもわかるように、ヘルスリテラシーの関連する分野・領域の幅の広さ、その重要性が伝わる発表でした。また、会場においては、活発な質疑応答があり、本分野への関心の高さが伺えました。

4. 現在と今後に向けて

本学会のシンポジウム・一般演題発表に参加の皆様にとって、以上のように、有益な学術集会であったと確信しております。本学術集会が、今後さらに、どのような分野、領域等においてヘルスリテラシーが有効であるかを検証し、

実践家としてもその知見を社会に広め、また、研究者として更なる研究を深めて頂ける機会になればと念願しております。

来年度の「ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～」において、多くの一般演題が発表され、多くの参加者と意見交換できることを祈念しております。